

第36回むし歯予防全国大会の概要

日程： 2012年11月18日（日）10時～13時（受付開始：9時30分～）

会場： 東京歯科大学・水道橋校舎・13階 中講義室
東京都千代田区三崎町2-9-18
JR 総武線 水道橋駅下車、東口改札口を出て右手すぐ

対象： 水道水フロリデーション実現の趣旨に賛同し、下記内容のグループワークに建設的に参加する意思のある方々。

内容： グループワーク「フロリデーション実施への道すじをつくる」
全員参加による二段階のグループワーク（1グループ8名程度）を行い、以下の2テーマを討議し、日本における水道水フロリデーション実施への道すじをつくります。

- ・テーマ1「日本で水道水フロリデーションが何故できていないのか？」
- ・テーマ2「日本で水道水フロリデーションを実施するには誰が、何を、どうすればいいのか？」

ファシリテータ：

筒井昭仁（福岡歯科大・口腔保健学講座 准教授）

岩井 梢（NPO 法人ウェルビーイング 理事）

安藤雄一（国立保健医療科学院生涯健康研究部 上席主任研究官）

次第(案)：

- 10:00～ 開会挨拶、趣旨説明
- 10:15～ 日本におけるフロリデーションの歴史的経緯（確認のための情報提供）
- 10:35～ グループワークのすすめ方に関する説明
- 10:50～ グループワーク（テーマ1：討議30分、発表・質疑等30分）
- 11:50～ 休憩
- 12:00～ グループワーク（テーマ2：討議30分、発表・質疑等20分）
- 12:50～ まとめ、閉会挨拶

問合せ窓口：

田口千恵子（日F会議理事、日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座）

Tel & Fax : 047-360-9353*

メール : taguchi.chieko@nihon-u.ac.jp

趣旨：

わが国には、1952年の京都山科でのフロリデーション実施以降3つの実施経験がありましたが、1972年の沖縄の中断で、実施するところはなくなっています。1980年代以降もいくつかの地域が実施の意向を示しましたが、いずれも実施には至っていません。

一方、フロリデーション実施への環境は順次整備されてきました。2000年、厚生労働省は学術団体の推奨表明を受けて「地域の合意を持って0.8ppm以下で実施されるものであり、要請があれば支援する」との見解を出しました。

「0.8ppm以下」については、全国レベルで見ると十分ではない地域もありますが、この条件を外すには多大なエネルギーと時間がかかります。当面これでもいいのか、残るは「地域の合意」です。この合意という状態はいったい何なのでしょう。地域の住民全員がyesということなのか、地域住民の意見はともかく議会でyesが多数を占めればよいのか、あるいは第三の形態があるのか。いずれにしてもフロリデーション実現のためにはゴールの設定が必要です。また、逆にスタートも必要です。それは推進するための組織づくりから始まります。どのような人材が必要なのか？

さらに、ゴールが明らかになったところで、スタートからそこまでのプロセスはどうか？。また、そのプロセスを現場の実態に合わせて進めるスケジュールはどうするか？。地域には議員と住民だけではなく、その間を埋める種々の職種、役割を持ったステークホルダー（利害関係者）が存在します。ゴールである「地域の合意」のために、誰に、どのように働きかければいいのか？。

環境要件がほぼ満たされた今、「地域の合意」を定義し、精度の高いプロセスとスケジュールを作っておくことが重要だと考えます。それは、地域で実施のための組織が形成された時点から、明確なゴールに向けて進むときに有用となるでしょう。ステークホルダーが特定され、プロセスを地元の時間軸に合わせるかたちでスケジュールが組まれることとなります。

ここはフロリデーション実施への意欲が日本で最も高い人の集まりです。みんなで知識、知恵、技術を集めて、ゴールへの道すじ（プロセス）を探り、スケジュールを考え、ステークホルダーを特定し、対処する方法を検討し、整理しておきましょう。